

二〇二五年度入学試験

前期入試試験問題

国語

注 意

- 一、開始のチャイムが鳴るまで開いてはいけません。
- 二、受験番号を解答用紙の二か所に書き、答えはすべて解答用紙に書きなさい。
- 三、問題は 1 から 3 までで、十ページにわたって印刷してあります。
- 四、終了のチャイムが鳴ったら、すぐに筆記用具を置きなさい。

1 次の各問いに答えなさい。

問 1 線のカタカナを漢字に直しなさい。送りがないが必要な場合は、それをひらがなで書きなさい。

(1) 余分なシュツピをおさえる。

(2) お祈りの言葉をトナエル。

(3) 虫のヒヨウホンを作る。

(4) 周りの人に気をクバル。

(5) 図書イインの仕事をする。

問 2 線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

(1) 重さでふくろが破れる。

(2) 体験の機会を設ける。

(3) 管を通して水を送る。

(4) 有益な情報を得る。

(5) 街角の風景をながめる。

② 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

七月に入り、①葡萄畑はまた、その表情を変えた。今年の梅雨は、雨が少なかった。良いことだ、と日野さんが森園くんに話していた。雨は塵や埃を
つれて落ちてくる。黴や病気の原因となるし、一日たりとも気が抜けないと光実も言う。

花が咲いた後の房に、緑色のちいさなかわいらしい実がついていると思っていたら日に日に、大きくなりはじめた。きのう花が咲いたばかりの葡萄もある。歩は今まで、生長の速度が葡萄の品種によって大きく違う、ということを知らなかった。言われてみれば当然、という気もするが、そもそも気にしたことすらなかった。

デラウェアという品種が、もう紫色に色づきはじめている。七月の末頃には収穫がはじまって、すぐに仕込みをして、また別の品種の収穫をして、という日々が、だいたい二か月ぐらい続くと光実は話していた。ついていけるだろうか、という不安がある。必死でついていくしかないのだが。

今日はマスカット・ベリーAの摘房、と歩に向かって光実が言う。摘房っていうのは……、と言葉を選ぶように一瞬黙った光実に「一本の枝に一房だけ残して後は切る作業、で合ってる？」と言うと、そう、と頷いた。昨日の晩に『ブドウ栽培の基本』という本で予習してきたのだ、どうだ、と歩は

①Aを張ったが、光実の背後にいた森園くんに疎ましそうな視線を投げかけられただけだった。
ひとつの房にすべての養分を結集させ、凝縮した味の果実を育てる。そのために摘房をおこなう。そのための作業だ、と本の内容を思い出しながら光
実から手渡された鋏を片手に枝に実った葡萄を見ていると、突然日野さんの怒号が飛んだ。

「適当に切るな！」

ぎよっとして、思わず鋏を取り落としそうになる。やみくもに切ってはならないことぐらいわかっているから、頼むからそんなに怒鳴らないでくれと言
いたい。しかもただ見ていただけだったのに、と不満を抱く歩の傍らに、光実が立つ。②まずは解くのだと、森園くんのほうを気にしながら小さな声で
言う。

木に実った葡萄の房は、蔓がもつれあったり、隣の枝にからまつたり、とてもこんがらがっている。それを丁寧にほどこいて、残すべき房を探してやる
ことが必要なのだ。幹の部分にいちばん近いところに実っている房を残すのだが、場合によってはその先の房のほうが状態が良い、ということもある。一
本一本、丁寧にしながら作業しなければならない。ついでに房の周辺の葉も、日光を遮ることがないように取ってやる。丁寧にね、と光実はBを押す。

丁寧に、丁寧に。葡萄を傷つけぬように。そっと持ち上げて、枝をくぐらせ、ほどこいてやる。なにもそんなに一か所に集まらんでも、と思うほどいくつ
もの蔓がからみついた枝もある。それはおそろしく根気のいる作業だった。垣根仕立ての畑は、地面に近いところにもたくさん実っているから、しゃがむ
動作が多い。腰にも膝にも負担がかかる。

「この切った実は、どうするんですか？」

そこに、と森園くんがぞんざいな仕草で指さす。木の下に放置しておけということなのだった。森園くんが放った実が木の根元に当たって、ひと粒転がった。歩は自分の手の中の葡萄を眺める。せつかくお前こゝまで育ったのになあ、と声をかけたいような気持ちになる。自分が葡萄ならば、たぶんここで捨てられる側なのだろうなあ、などとも思う。房からひと粒もいで、口に入れた。ワイン用の葡萄は生食用のそれよりもずっと小さくて、食べてもおいしくないと思う。皮も分厚いしな、と思いながら、歯を立てる。奥歯で噛むと、果汁が迸った。ほんとにおいしいくない、と呟いたら口の端から果汁が垂れた。手の甲で拭う。ものすごくすっぱい。舌が痺れるほど。

けどちゃんと葡萄だ、と皮を吐き出しながら思う。

木の下にそっと置きながら、③ お前たちの犠牲を、絶対に無駄にさせないからな、などというような思いがこみ上げてくる。手を動かしてください、と背後から日野さんに叱責される。森園くんがくすつと笑う。歩が今摘房されたばかりの④ 葡萄に感情移入していると知ったら、おそらくもつと笑うのだろう。

頭上に影が差した。雲が動いているのだった。足元を、蟻が歩いていく。葡萄の実から垂れた果汁を目指しているのかもしれないなかった。

額の汗を、首からかけたタオルで拭う。蔓をたどっていくと、それは地面に近いところまで伸びている。しゃがんで、顔を地面に近づけた。蔓のゆくえを追ううちに、雑草の先端に頬が触れた。かすかな痛みを感じたが、気にしている余裕がなかった。

「血出てる」

すこし離れたところから、光実が指摘した。さっきの草で切れたらしかった。

「別にいい」

答えた声が、自分でも驚くほどそつけなかった。光実がすこし驚いたように「え」と呟く。森園くんがちらつとこつちを見たのがわかったが、それなんだ、という気分になった。枝を持ち上げ、蔓をほどく。⑤ 剪定鋏を動かしているうちに、周囲の音が消えた。どれぐらい夢中でやっていたのか、肩を

数回叩かれて、はっと我にかえった。

「休憩してください」

まだやれます、と答えた歩を、日野さんは軽く睨む。また貧血起こされると困りますから、と顔を背けながら言って、すぐに離れていった。

*

朝は畑に出て作業をし、昼からは店の仕事を加納さんに教えてもらい、夜の八時には眠りにつく、という日々が続いた。怒鳴られたりせせら笑われたりは毎日のことで、研いばかりの鋏で手を怪我したり、掃除中に醸造所でバケツにつまづいて水をぶちまけたりもした。そのひとつひとつに感情を動かす余裕すら、歩にはなかった。ただ目の前のことをこなすのに必死でいるうちに、七月の下旬を迎えた。

遠くのほうを見つめていた⑥ 日野さんが振り返って、明日ですね、と言う。明日ですか、と光実が答えている。蟬の声が一瞬遠くなる。そうか、いよいよはじまるのか。歩は額の汗を、首に巻いたタオルで拭う。夏の農作業の過酷さにすこしずつ慣れてきたつもりだったが、歩の身体はそもそも暑さに弱い。肘

の内側にできた汗疹が、ふいに猛烈な痒みを訴えはじめる。なんだなんだ落ち着け、となだめたり、作業着越しに掻いてみたりするが、ちつともおさまらない。

収穫のタイミングは、日野さんが決める。昨夜光実からそう教わった。このタイミングを見極めることが、いちばん大事なことのだという。早過ぎればじゅうぶんに成熟していない葡萄を摘みとることになり、遅過ぎれば糖度は上がるが酸度は落ちる。天候も考慮しなければならない。台風が来てしまえば、すべてふいになる。

たとえば欧州には台風がない。気候が安定しているから、だから良い葡萄ができるし、したがって良いワインができる。日野さんは畑の脇に立って、演説をするようにAを張る。この話がはじまると長い。歩はすこし後ずさりした。

(中略)

葡萄の棚ごしに空を見る。もうすっかり葉が生い茂って、かけらほどの大ききでしか空の青さをたしかめることができない。

本物をつくりたい、と熱心に語る日野さんの頭部に、がんがんに日光が当たっている。帽子なしで平気なのだろうか。太陽より日野さんのほうがアツいから？ などとくだらないことを考えていると、視線ががち合った。

「しかし私は、欧州と同じワインをつくれれば本物だ、とは思いません。月雲でなければつくれないワインが、本物、なのです」

日野さんは一歩踏み出す。

そういう気持ちを持てないなら、今のうちにやめたほうがいい。歩にだけ聞こえる声で、そう言う。

「明日から忙しくなるからね」

今日は夜更かししたらあかんよ、と光実が歩を見て笑う。うん、と笑い返そうとした唇がひきつった。

俺はそんなにやる気がないように見えるんやろか。朝、洗面台の鏡にうつる自分の顔をまじまじと見つめる。すこし痩せたようで、頬の線が削いだようになっちゃっている。やる気というか、なんというか、なんだ。つまりなんだ。頭の中で、ぴったりの言葉を探す。日野さんにあつて俺にないもの。情熱。それだ、と思いながらつめたい水で顔を洗う。

しかしあの人は、この仕事に就く以前から⑦そんな情熱を持っていたのだろうか。そういうのは、仕事を続けていくうえで徐々に喜びとか、おもしろさがわかってきて、それでだんだん育っていくもんじやないのか。知らんけど。そんな経験ないけど。最初に勤めた会社で誰かがそう言ってた気がするけど。その会社は情熱持つ以前に辞めたけど。と考えていると、洗面所の扉が荒々しく叩かれた。光実が「さっさとして」と叫んでいる。扉を開けると、光実が入って来る。長時間洗面所を占領するんじゃない、と怒られて、歩ははいはい、と力なく返事をする。

朝の五時から、収穫がはじまった。いつもは店番をしているパートの加納さんも手伝いに駆り出されている。加納さんはつばの部分から蚊帳のようなも

のが垂れさがった黒い帽子をかぶっていて、それすごいっすね、と森園くんが言うと、すごいっすよ、と笑う。

「どこで買ったんすか」

「通販っすね」

通販っすか、と森園くんは言い、突然駆け出した。取り残された恰好の歩と加納さんは並んで煉瓦の坂道をのぼっていく。加納さんは四十代の主婦で、無意識に相手の口調に合わせてしまう、という癖がある。ぶっきらぼうなお客さんにつられてしまっているのはよくない、と以前祖父から注意されていた。日野さんがものすごいスピードで坂道をのぼっていくのを、光実が追いかけている。その背中から「この人からすべてを学びたい！」とでもいうような、猛烈な情熱が迸っている。森園くんが追いついて、光実に並んだ。

「光実さん、痩せましたね」

加納さんが、ぽつりと言う。

やつぱりお母さんのことがショックやったやろうなあ、と眉根を寄せる加納さんに、曖昧に頷いてみせる。誰かの口から母の話題が出ると光実はいつも泣きそうな顔をするから、歩はなるべく母の話をしないように、気をつけている。

「やつぱり私らでも、まだかなしいもん。⑧ 先代の社長のこと思い出すと」

ああ、もういないんやなあって思う。加納さんが声をつまらせる。帽子でがっちりガードされているため見えないが、泣いているのかもしれない。そこにいると、周囲がばあつと明るくなるような人やったね。加納さんはなおも語る。

「そうですか」

ばあつと明るい光を放つものは、近寄りがたい。まぶしさに目をやられてしまう。

「けど、歩くんはえらいね。お母さんの遺志を継ぐためにがんばろうって思ったわけでしょ」

咳払いをして、加納さんはむりやり明るい声を出す。そんなやないですよ、と首を横に振って、あとは黙って歩いた。

(出典 寺地はるな『月のぶどう』)

問1 ——— 線部①「葡萄畑はまた、その表情を変えた」とありますが、これと同様の表現技法を用いているものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア あの子の笑顔は、ひまわりみたいに明るい。

イ 風がささやいて、木の葉がゆれている。

ウ 真夏の朝の満員電車はサウナである。

エ 気持ちだよ、大切なことは。

問2 ———— A・B に入る語としてふさわしいものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア 胸^{むね} イ 心 ウ 腹 エ 念 オ 身

問3 ———— 線部②「まずは解くのだ」とありますが、「解く」とは具体的にどのようなことにすることですか。本文中の言葉を使って、五十字以内で答えなさい。

問4 ———— 線部③「お前たちの犠牲」とは具体的にどのようなことを指していますか。それを説明した次の文の（1）・（2）に入る言葉をそれぞれ本文中からぬき出しなさい。なお（1）には十二字、（2）には六字の言葉が入ります。

（1）ために、切られた実が（2）されること。

問5 ———— 線部④「葡萄に感情移入している」とありますが、その内容を具体的に表している続きの二文を探し、そのはじめの五字をぬき出しなさい。

問6 ———— 線部⑤「剪定鋏を動かしているうちに、周囲の音が消えた」とありますが、これは「歩」のどのような状況を表していますか。本文中から二字でぬき出しなさい。

問7 ———— 線部⑥「日野さんが振り返って、明日ですね、と言う。明日ですか、と光実が答えている」とありますが、何が「明日」なのですか。五字で答えなさい。

問8 ———— 線部⑦「そんな情熱」とありますが、どのような「情熱」ですか。本文中の言葉を使って三十字以内で答えなさい。

問9 ———— 線部⑧「先代の社長」とは誰のことですか。本文中の言葉を使って説明しなさい。

【3】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。（設問の都合で図5-3は省略しました。）

2 生物による生態系サービスと農業との関わり

環境科学は、別の言い方をすれば「①生態学」と言えます。生態学は、森林や畑地及び河川など色々な生態系の中で、生物の生息域や数がどのように決まっているのかを明らかにします。生態系の中では、餌とその捕食者との捕食関係や餌をめぐる複数種の競争関係及び、アリとアブラムシに見られる共生関係などの種間関係があります。

生態系サービス(図5-1)は、最近使われるようになった生態学の用語で、農業にとっても関わっています。たとえば稲わらなどの有機物は栄養循環に役立ち、ミミズなどの土壌生物は健全な土壌作りに貢献しています。

より果実や作物の生産に役立ちます。このように農業生態系の多様な生物やそれらの種間関係は、生態系の多面的なサービスに貢献します。

農業は、本来このような生態系サービスを活用する産業ですので、生態系サービスを知ることが農業を行うためにも重要です。生態系サービスは、大きく四つに分けられます。

一つ目は、生態系そのものを持続させる支持機能(基盤サービス)です。これは、他の三つの生態系サービスを支えるもので、光合成による酸素の生成、水循環、物質生産、有機物の分解などがあります。

二つ目は、直接的な自然のめぐみで、水資源の供給、農産物や魚介類など農林水産資源を通じた食料の提供、さらに建築材や燃料など各種の材料の提供などです(供給サービス)。

三つ目は、洪水や土砂崩れなどの自然災害を防止する働きや、農作物を受粉させる訪花性昆虫の働きなどを調整する機能です(調整サービス)。

最後は、ハイキングや釣りなどのレクリエーションや、自然に由来するさまざまな事象をもとにした芸術、文化、宗教など、人間のさまざまな営みに関わる精神的な恩恵などです(文化的サービス)。

この生態系サービスを維持するのに、生物の多様性は不可欠です。たくさんの種類の生物が存在することによって始めて、この生態系サービスが可能だからです。

これら四つの生態系サービスは、どれも広い意味で農業と関わりがあります。次節で詳しく述べますが、害虫防除に天敵を使う、害虫の生物的防除も生態系サービスの一つです。

II

、害虫防除に農薬を散布すると農薬により害虫を食べてくれるはずの天敵が減ってしまい、害虫には薬剤抵抗性が生じて薬剤が効かず害虫が大発

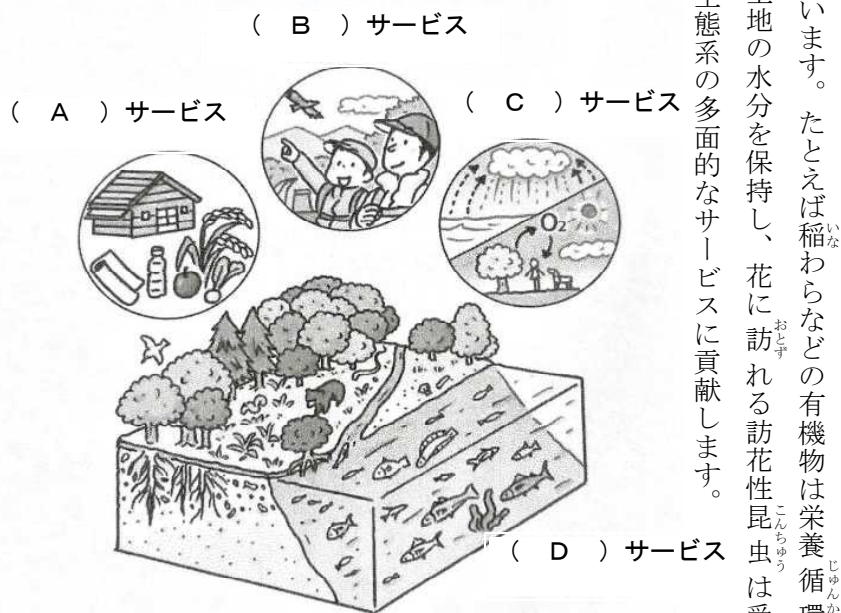


図5-1 4つの生態系サービス

生することがあります。このような状況から、農薬の使用はできるだけ少なくし、害虫のアブラムシなどを天敵のテントウムシなどで防除する生物的防除を中心にした総合的害虫管理が今、温室などの害虫管理として行われています。

3 環境保全と生物を活用する農業

農業は、化学肥料や化学農薬などの化学資材を使用する以前は、多様な生態系サービスを活用して環境を保全し、資源を循環させて営まれてきました。環境を保全し資源を循環させる農業（環境保全資源循環型農業）は、前述した害虫の薬剤抵抗性の問題などの反省に立ち今後の農業の一つの方向性を示しています。

②このような農業の展開には、農耕地などを※俯瞰し、その中の構成要素を有機的にとらえる環境科学の発想が必要です。なぜ、このような農業が重要になったのでしょうか。これまでの農業で生じた問題を通じ環境保全資源循環型農業の必要性を一緒に考えてみましょう。

農作業を経験した人はよくわかると思いますが、畑で作物を作るには、まず、畑を耕して肥料をまきます。そして、作物の苗などを植え、病気や害虫が発生しないように農薬を散布し、作物を育てます。

日本を含む世界の多くの農業は、このように化学肥料で作物の生育を良くし、作物に病気や害虫の被害が生じる前に化学農薬を散布します。効率よく作物を生産する場合、このような農法は必要です。

この方法で収量は③増大しますが、問題も生じます。たとえば、化学肥料や化学農薬の使用による環境への悪影響や病害虫の発生です。病害虫防除をするため農薬を散布するのには、④農薬を使用すると病害虫が発生するのは妙だと思ってしまう。前述しましたが、農薬を散布すると農薬が害虫に効かなくなる薬剤抵抗性が生じることがあります。これは、農薬が使用されてから世界の多くの国や地域で経験しています。農薬抵抗性の獲得が早いときには、農薬散布後一年で害虫に薬剤が効かなくなることもあります。さらに、クモなどの天敵が農薬で死亡することによって、害虫が多くなることもあるのです。また、化学肥料を多量に使用すると土壌が劣化し、土から健康を奪い、土壌環境が悪化します。そして、土中の栄養バランスが崩れることもあります。さらに化学肥料の多用による地下水の汚染なども生じます。

一方、化学肥料や化学農薬は、石油などの化石資源に由来し、この化石資源は三〇年後には枯渇するとの予測もあります。このような点から、今後の農業は化学肥料や化学農薬の使用はできるだけ少なくし、自然の物質循環や多様な生物の機能を活用し、環境を保全して資源を循環させる環境保全資源循環型農業が望まれているのです。

しかし、農家は、作物に病虫害が発生し、被害が生じると農産物の価格が下がるので、病虫害が発生しないよう農薬を散布します。また、収量を上げるため必要以上に肥料を投入する傾向があります。「X」です。

環境保全資源循環型農業の実施は、そう簡単ではありません。環境保全を重視した農業の概要例を図5-2に示しました。このような農業では、広範囲

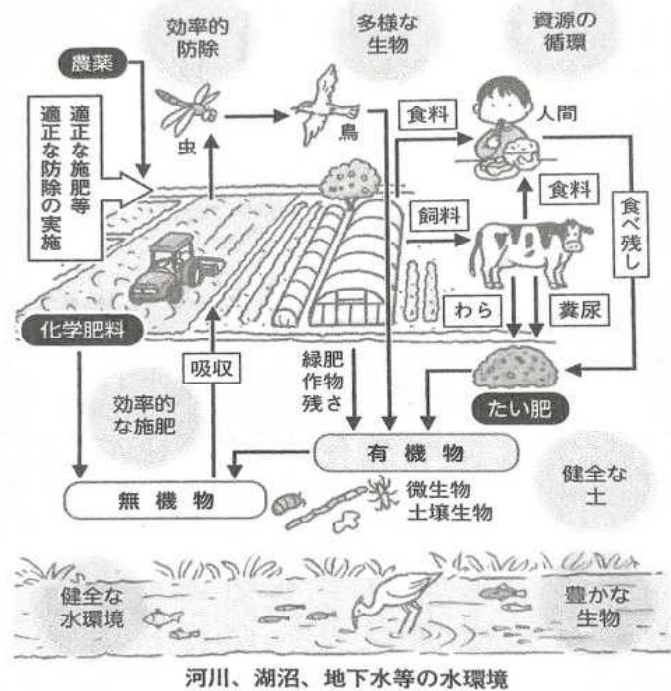


図 5-2 環境保全を重視した農業生産
(平成 20 年度 食料・農業・農村白書より改変)

な地域を対象に、それぞれの要因が有機的に結ばれ、環境への負荷を総合的に軽減することが必要です。

環境保全資源循環型農業に取り組んでいる農家の割合を二〇〇〇年と二〇〇五年で比較しました(図 5-1-3)。このように、最近では環境保全資源循環型農業に取り組む農家も増加しています。環境保全資源循環型農業で生産した農作物を Y、このような労力のかかる農業も増加するでしょう。

環境保全資源循環型農業の基本は土作りです。⑤ 環境への負荷を少なくし、資源を循環させる土作りです。それには、化学肥料の使用を少なくし、農耕地の有機肥料として家畜糞尿などを活用して、資源を循環させることも一つの方法です。

これは、環境保全資源循環型農業につながります。Ⅲ、化学肥料に比べると有機肥料の使用は手間がかかり、すぐに効果が表れるとも限りません。また、環境保全資源循環型農業の実施には、土作りにどのような有機物が好適であるか、有機物肥料による作物の生育への影響はどうか、作物への病気や害虫の被害程度はどうか、などの一連のつながりを明らかにする必要があります。このような研究も少しずつ進み、今後、成果が期待される場所です。

※ 注 俯瞰・・・全体を上から見ること。
(出典 生源寺眞一・太田寛行・安田弘法『農業が世界を救う！食料・生命・環境をめぐる科学の挑戦』所収安田弘法「第 5 章 環境科学の挑戦」)

問 1 線部①「生態学」を研究する目的を、本文中から探し、はじめと終わりの五字をそれぞれぬき出さない。(句読点は字数に含みます。)

問 2 I Ⅲに入る語を次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度使うことはできません。

ア では イ したがって ウ たとえば エ さらに オ しかし

問 3 図 5-1 の (A) (D) に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれぬき出さない。

問 4 ——— 線部② 「このような農業」とはどのような農業ですか。本文中から十一字でぬき出しなさい。

問 5 ——— 線部③ 「増大」とありますが、この言葉と成り立ちの同じ言葉を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 救助 イ 断続 ウ 急行 エ 登山

問 6 ——— 線部④ 「農薬を使用すると病害虫が発生する」とありますが、その理由を本文中の言葉を使って、それぞれ二十字以内で二つ答えなさい。

問 7 X に当てはまることわざを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア さるも木から落ちる イ 石の上にも三年
ウ 言うは易し、行うは難し^{かた} エ 案ずるより、産むが易し

問 8 Y に当てはまる内容としてふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 消費者が必要な量だけ購入すれば イ 消費者が肥料として購入すれば
ウ 消費者が安い価格で購入すれば エ 消費者が高い価格で購入すれば

問 9 ——— 線部⑤ 「環境への負荷を少なくし、資源を循環させる土作り」とはどのような土作りですか。ふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 化学肥料などの使用を少なくし、資源を消費するような土作り。
イ 化学肥料などの使用を少なくし、資源を再利用するような土作り。
ウ 化学肥料などを大量に使用し、資源を消費するような土作り。
エ 化学肥料などを大量に使用し、資源を再利用するような土作り。

問 10 あなたが環境保全につながることを、これまでに行ったことを具体的に一つ取り上げて、その行動がどのような環境保全につながるのか、あなたの考えを八十字以上百字以内で書きなさい。

これで問題は終わります。